

2019年3月13日

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

**『高山市における外国人観光客の緊急時の受入医療体制の向上
及び防災・減災に係る連携に関する協定』の締結について**

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン日本興亜」）は、増加する訪日外国人旅行者の緊急時受け入れ体制と防災・減災対策において、相互に密接な連携を図るため、高山市（市長：國島 芳明）と高山赤十字病院（病院長：津島 満）、久美愛厚生病院（病院長：堀 明洋）、日本エマージェンシーアシスタンス株式会社（代表取締役社長：倉田 潔、）の5者で「高山市における外国人観光客の緊急時の受入医療体制の向上及び防災・減災に係る連携に関する協定」を3月13日に締結したことをお知らせします。

1. 背景・経緯

- ・高山市を訪れる訪日外国人旅行者は増え続けており、人口（約9万人）に対する年間の外国人宿泊者数は5倍を超えています。外国人受診者数や救急搬送件数も増加の一途で、急増する外国人患者受け入れにおける課題は、多言語対応から医療費未払いへの対応、宗教・文化への対応等多岐に亘ります。
- ・高山市では以前から外国人観光客の受入医療体制の向上のため、「緊急対応コミュニケーションサポーター制度」を導入しており、高山市と損保ジャパン日本興亜は、サポーター向けセミナーの共同開催など相互に協働してきました。
- ・損保ジャパン日本興亜は、市内シェアトップの損害保険会社として、訪日外国人旅行者向けの「訪日旅行保険」の開発や地方自治体向けの「防災・減災費用保険」の開発等を行ってきました。今後も市民サービスの向上と高山市のブランディングや地域活性化に貢献するため、このたび高山市との協定の締結に至ったものです。
- ・行政が損害保険会社、地域中核医療機関、医療アシスタンス会社と5者連携協定を締結するのは、今回が初めてとなります。

2. 協定の目的

本協定の参加団体が、各々の資源を活用した協働による活動を推進し、高山市を訪れる外国人観光客の緊急時の受入医療体制の向上と防災・減災に資することに取り組みます。

3. 協定の主な内容

損保ジャパン日本興亜は高山市および参加団体と連携し、以下の分野を中心に取り組みます。

- (1) 高山市を訪れる外国人観光客の緊急時の受入医療体制の向上に向けた連携に係わる協議
- (2) 防災・減災に向けた連携

4. 今後について

損保ジャパン日本興亜は、今後も地方自治体と連携し、安心して暮らせる安全な地域社会を創生することに貢献していきます。

以上